

## エピソード83

# 保護者に辛いことばを言われました

このエピソードでは、教職経験5年目、20代男性の先生の経験を紹介します。



ジュリさん  
教師を目指して勉強中



先生は、5年生から持ち上がった6年生のクラス担任なんですね。

はい、これからお話しする保護者のお子さんはとてもおっとりしているタイプです。名前は陸人くんです。よくお話をしてくるお子さんだったので、私との関係は悪くなかったと思っていました。むしろ好いてくれているかなと思っていました。

保護者は30歳代。たくさん質問をしてきたり、話していても過程より結果を大事にしているように感じるので、教育相談では話しにくいな、苦手だなと感じていました。



ある日の朝、管理職に電話がありました。大変ご立腹の電話で、陸人くんが同じクラスの拓郎くんからいじめを受けているということです。

## お話の内容は…

陸人は何もしていないのに、拓郎くんが悪口を言われて叩かれることもある。これはいじめだと思います。陸人がやめると言ってもやめないなので、拓郎くんと保護者に強く言ってください。今日の対応の内容を今日中に知らせて欲しい…です。

管理職の判断で、すぐに教務主任が陸人くんに話をきくことになりました。私には、よく分からないままことが進んでいく感覚でした。教務主任が陸人くんに事情を聞き取った話では、陸人くんは保護者に心配してほしくて話している部分もありそうだという見解でした。



放課後に対応の報告を聞きに陸人くんの保護者が来校。私と学校に対して、今まで何をしてきたのか、いじめではないですか、すぐにやめて欲しいのに…など、強い語調で話されます。

経営が大変なクラスで、その日その日を耐えていた私だったので、その言葉を聞いて「自分は頑張ってなかったのかな」と思ってしまいました。まだ頑張らないといけないのかと絶望して泣きそうになりました。

今回の件は私はいるだけで、管理職が事を進め、私の思いもなく、進んでいたのも、やるせ無い気持ちでいっぱいでした。私のやり方がよくなかったと責められている気持ちになりました。

こういう時、保護者に寄り添ってと言うが、寄り添う気持ちにもなれず、保護者の気持ちを理解しようとも思えず、要望を叶えることはできないし、保護者の要望で拓郎くんにも陸人くんが嫌がっていると伝えられないので、改善が見られず、どうしていいか辛かったのが本心です。

時が経って、保護者の気持ちを今考えると、子どもの困っていることを解決することで親子関係を改善させたかったのだと思います。思春期で親子関係が上手くいかないと話していたことがあるので、自分が陸人くんの目に見える形で活躍したかったのだと思います。

その後、拓郎くんのことをクラス全体の問題として対応していくことになり、長期戦で対応を続けました。補助担任がクラスに入ってくれたり、スクールカウンセラーにも相談する等、大きく動くことで拓郎くんの改善も見られ、電話での報告を定期的に行い、保護者の不満は聞かれなくなりました。





陸人くんの保護者への対応は、担任の私の思いや考えと別に進めなければならず、クラス経営にも影響してしまい、とてもやるせないものでした。



# ジュリさんの気づき



この先生の辛くてやるせない気持ちがわかります。

担任の先生のお話を聞いてくれる先生がいたらよかったのにも  
思いました。

# お・し・ま・い

## 若い先生の保護者支援



ジュリさん

<掲載してあるエピソードはエデュサポネットメンバーの経験をもとにした架空のエピソードです。>

イラスト 尾上樹里  
(北海道教育大学 大学院生)